

**12月13日（日）、千葉大学生がプロの狂言師指導の下
創作狂言「やぶしらず」を上演**
～市民、千葉県文化振興財団、NPO法人と連携した新しい伝統文化への取組～

千葉大学は、12月13日（日）千葉文化会館にて、公益財団法人千葉県文化振興財団と連携して、創作狂言「やぶしらず」を上演します。

■ 創作狂言「やぶしらず」について

今回の公演は、市川市八幡に現存する「八幡の藪知らず」にまつわる伝承を取り上げ、舞台化します。「足を踏み入れてはならない」との伝承がある藪知らずの話聞いた水戸黄門が、その地へ自ら赴くことから物語が始まります。現代的な風刺をも盛り込みながら、魅力的な舞台に仕上がりがつつあります。

なお、第一部に古典狂言「隠狸（かくしだぬき）」の上演も行われます。



過去の公演の様子

【公演名】 **創作狂言「やぶしらず」**

【日時】 **12月13日（日） 13：30開場、14：00開演**

【場所】 千葉県文化会館 小ホール

【料金】 **全席自由2,000円、学生1,000円**

【運営】 見る、知る、伝える千葉～創作狂言～運営委員会

【プレイガイド】 千葉県文化会館 043-222-0201

千葉県東総文化会館 0479-64-2001

インターネット予約

<http://www.cbs.or.jp/>



■ 普遍教育教養展開科目「伝統文化をつくる」の授業について

千葉大生は普遍教育教養展開科目「伝統文化をつくる」の授業の中で、これまで創ってきた狂言の舞台制作について学び、その伝統を受け継ぎながら台本作り・小道具作り、展示物作成、**狂言体験講座への参加**などを行っています。

授業では、学生たちは、**舞台・道具・展示・広報**の4つの班に分かれて活動を行っています。



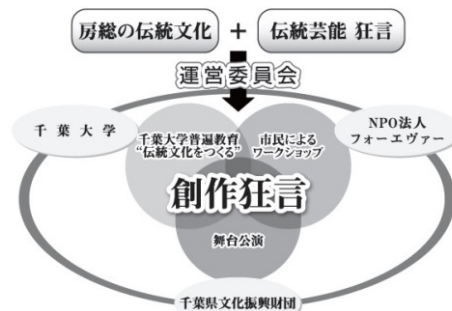
狂言体験講座



道具班

■ 「見る、知る、伝える千葉～創作狂言～」とは

房総に伝えられてきた、民話や伝承をもとに和泉流狂言師 **小笠原匡**（おがさわらただし）、千葉大学及び市民が新たに創り上げてきた狂言です。**千葉大学、NPO法人フォーエヴァー、公益財団法人千葉県文化振興財団**で**運営委員会**をつくり運営を行っています。これまでに「千葉わらい」「はごろもかたり」「鬼来迎」「ヤマトタケルとオトタチバナヒメ」「水戸黄門と藪しらず」という作品を創り、上演してきました。



取材のお申し込み・本件に関するお問い合わせ
千葉大学学務部教務課教務係
TEL : 043-290-3613 メール : dcf3613@office.chiba-u.jp



見る、知る、伝える千葉



やぶしらず

創

作

狂

言

第一部

レクチャー&デモンストレーション

かくしだぬき
狂言「隠狸」

シテ/太郎冠者 小笠原 匡
アド/主人 野村 万禄

第二部

創作狂言「やぶしらず」

作・演出/小笠原 匡
制作協力/千葉大学
出 演/小笠原 匡

野村 万禄 加藤 充華
若菜の会 千葉大学学生
狂言体験講座受講者

八幡の闇に挑む

水戸のご老公



平成27年12月13日(日) 14:00開演
千葉県文化会館 小ホール

※駐車台数に限りがありますので、
公共の交通機関をご利用ください。

全席自由 2,000円
学生 1,000円
(税込)

※未就学児の入場はご遠慮ください。

主催：千葉県文化会館 (公財)千葉県文化振興財団

後援：千葉県・千葉県教育委員会

千葉市・千葉市教育委員会・市川市・市川市教育委員会

運営：見る、知る、伝える千葉～創作狂言～運営委員会

助成：芸術文化振興基金

チラシデザイン：千葉大学法政経学部 1年 川島遼

千葉大学教育学部 1年 矢吹優奈

プレイガイド

インターネット予約 <http://www.cbs.or.jp/>

千葉県文化会館 043-222-0201

千葉県東総文化会館 0479-64-2001



千葉県文化振興財団
facebook

第一部	<p>レクチャー& デモンストレーション</p> <p>講師 小笠原 匡</p>	<p>狂言についての知識や演技方法を、実演を交えながら解りやすく説明します。狂言については、歴史、簡素な舞台の意味などを、演技方法については、道行き（場面が変わるときに用いる）・擬音（効果音、動物の鳴き声などの表現）・小道具（扇の使い方）など狂言の独特な約束事をお話しします。</p> <p>今回は特別に、会場の皆様と一緒に「笑い」や「泣き」など喜怒哀楽の表現を楽しく体験していただきます。</p>
	<p>かくしだぬき 狂言「隠狸」</p> <p>シテ 太郎冠者 小笠原 匡 アド 主人 野村 万禄</p>	<p>太郎冠者が狸を釣っている（捕っている）という話を聞いた主人は、太郎冠者に本当かと尋ねると、釣ったことがないとウソをつきます。主人は、太郎冠者の狸をあてにして、狸汁を振る舞う案内を出してしまったので、市場で狸を求めてくるよう太郎冠者に命じます。実は昨夜、太郎冠者は大狸を釣っており、市場へ売りに行こうと考えていました。狸を手にした太郎冠者が市場へ出向くと、そこに主人が現れて・・・。</p>
第二部	<p>創作狂言「やぶしらず」</p> <p>小笠原 匡、野村万禄、加藤充華、若菜の会、千葉大学学生、狂言体験講座受講者</p> <p>作・演出 小笠原 匡 制作協力 千葉大学</p>	<p>天下の副將軍水戸光圀（水戸黄門）が、水戸から江戸へ名所旧跡を参拝する道中で、葛飾八幡宮（現在の市川市本八幡）に立ち寄ります。そこで氏子たちより、誰も恐れて近寄らない「八幡の藪知らず」のうわさを耳にしました。</p> <p>入ったら二度と出て来られないという禁断のこの土地に、光圀はあえて足を踏み入れるのでした。</p> <p>果たして、光圀がそこで見たものとは・・・。</p>



作・演出 ^{おがさわら} ^{ただし} 小笠原 匡 和泉流狂言師

1965年東京生まれ。初世野村萬（文化功労者・芸術院会員・芸団協会長・人間国宝・能楽協会理事長）、故8世野村万蔵、9世野村万蔵に師事。すでに狂言の大曲である「奈須与市語」「三番叟」「釣狐」「金岡」「花子」を抜く。また、新作狂言「鉢かづき」「千葉わらい」「光源氏」等の作・演出を手がける。さらに、能・狂言・文楽・落語・講談・和太鼓という6つのジャンルのコラボレーションをめざした「風流」を主宰して、「刀こぼ」「良忍さん」「石川五右衛門」等を作・演出する。愛知万博開催記念特別公演「ふるさとの四季」や「平成版・阿国歌舞伎」作・演出・主演。

2005年はNHK大河ドラマ「義経」、2006年はNHK金曜時代劇「出雲の阿国」の芸能指導を担当した。2007年には「狂言と鼓童のコラボレーション・蓬萊貴譚」を作・演出する。2013年秋放送NHK朝の連続テレビ小説「ごちそうさん」でも所作指導を担当。現在、萬狂言関西支部代表、重要無形文化財総合指定保持者、(社)日本能楽会会員(公社)能楽協会会員、千葉大学客員教授、和太鼓集団「鼓童」講師。

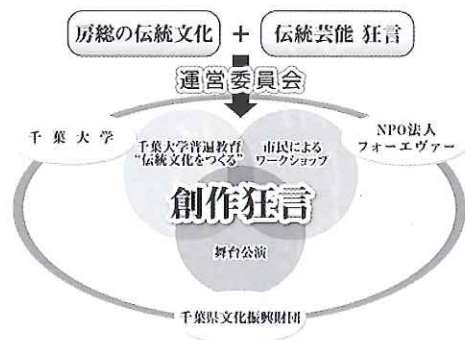
ホームページ <http://www.atelier-oga.com/>

「見る、知る、伝える千葉～創作狂言～」プロジェクト

古くて新しい伝統文化への取り組み

房総に伝えられてきた民話や伝承をもとに、和泉流狂言師小笠原匡、千葉大学、千葉県文化振興財団、市民などで新たに創り上げてきた狂言の舞台です。千葉大学、NPO法人フォーエヴァー、千葉県文化振興財団で運営委員会をつくり運営を行っています。

これまでに「千葉笑い（千葉市）」「羽衣伝承（千葉市）」「鬼来迎（横芝光町）」「ヤマトタケル伝承（千葉県広域）」「八幡の藪知らず（市川市）」を題材に狂言を創作し、上演してきました。



千葉県文化会館交通案内

〒260-8661 千葉市中央区市場町11番2号
TEL043-222-0201 FAX043-227-0763

【JR千葉駅より】

- ・京成バス⑦大学病院ゆき乗車約10分
郷土博物館・千葉県文化会館下車徒歩2分
- ・千葉都市モノレール乗車約6分
県庁前駅下車徒歩約7分

【JR本千葉駅より】

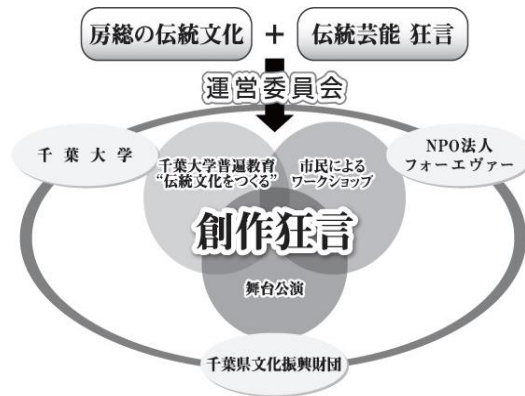
徒歩約10分



「見る、知る、伝える千葉～創作狂言～」とは

～古くて、新しい伝統文化への取り組み～

房総に伝えられてきた、民話や伝承をもとに和泉流狂言師 小笠原匡（おがさわらただし）、千葉大学、及び市民が新たに創り上げてきた狂言です。千葉大学、NPO法人フォーエヴァー、公益財団法人千葉県文化振興財団で運営委員会をつくり運営を行っています。これまでに「千葉わらい」「はごろも かたり」「鬼来迎」「ヤマトタケルとオトタチバナヒメ」「水戸黄門と藪しらず」という作品を創り、上演してきました。



今回の創作狂言「やぶしらず」は、市川市八幡に現存する雑木林「八幡の藪知らず」にまつわる伝承を題材にしており、平成22年の創作狂言「水戸黄門と藪知らず」の再演にあたります。前回の内容を基に、大学生のユニークな発想を盛り込み、創作狂言の利点をいかした、より新しいものになっております。

今回の創作狂言は、「足を踏み入れてはならない」という言い伝えが残る「藪知らず」の話聞いた天下の副将軍水戸光圀が、その禁断の土地へ自ら足を踏み入れてしまうことから物語が始まります。史実やドラマでは正義の味方としてよく知られる水戸黄門ですが、今回は、八幡宮の取り潰しを恐れ、自分達の愛する土地を守ろうとする氏子たちの機転にしてやられた水戸黄門の滑稽な姿が見どころとなっております。現代的な風刺をも盛り込みながら、ご覧になった皆さんがより千葉県に親しみを持っていただけるような舞台を目指して参ります。つきましては、多くの方々にご覧頂きたく、ご案内申し上げます。

やぶしらずについて

「やぶしらず」の舞台となるのは、「八幡の藪知らず」という竹藪で、実際に、今の市川市役所の前に現存しています。この「藪知らず」は、江戸時代中期の書物『葛飾記』に「鬱々（うつうつ）としてその中見え透かず、「もし入れば堅（たちどころ）に駐（すく）み死して、出づるものなし」といった記述があるように、「人々が立ち入ってはならない」とする「禁足地」であることが古くから知られていました。「藪知らず」が禁足地となった理由には、数多くの言い伝えがありますが、その一つに、この藪が平将門の死門（この世からあの世への関門）であったから、という言い伝えがあります。

この平将門にまつわる言い伝えに加えて、テレビドラマのモデルとしても有名な水戸黄門に関する伝承が残っています。「藪知らず」の平将門に関する言い伝えを聞き、これを不審に思った水戸黄門が藪に入ったところ、白髪の老人が現れ、「今後禁を破ってはならない」と戒めた、というお話です。

今回の公演は、この水戸黄門に関する伝承を基に、さらにそこにアレンジを加え、ユーモアのある作品に仕上げられています。

・千葉大学の取り組み

千葉大学の学生は普遍教育「伝統文化をつくる」の授業の中で、これまで創ってきた狂言の舞台制作について学び、その伝統を受け継ぎながら台本作り・小道具作り、展示物作成、狂言体験講座への参加などを行っています。



・NPO法人フォーエヴァーの取り組み

NPO法人フォーエヴァーは、千葉に芸術文化を根付かせるために活動している団体です。

様々な公演運営のノウハウやネットワークを活用し、市民の狂言体験講座および公演本番、指導者のサポートなど、全体を通して運営を支えています。

・狂言体験講座

公募によって集まった受講生は5回の狂言体験講座を経て、創作狂言公演に出演します。講座では基本となる発声やすり足など狂言のいろはから学び、セリフの言いまわしや所作を習得し、公演の出演者としての技術を身につけることができます。

公演では、衣裳やお面を身につけ、狂言師と共演します。



講座開催日：9／14（月）、10／19（月）、
11／9（月）、11／16（月）、
12／12（土）

おがさわら ただし
小笠原 匡（作・演出）



1965年東京生まれ。初世野村萬（芸団協会会長・人間国宝・文化功労者・芸術院会員）、故8世野村万蔵、9世野村万蔵に師事。すでに狂言の大曲である「奈須与市語」「三番叟」「釣狐」「金岡」「花子」を抜く。また、新作狂言「鉢かづき」などの作・演出を手がける。さらに、能・狂言・文楽・落語・講談・和太鼓という6つのジャンルのコラボレーションをめざした「風流」を主宰して、「刀こぶ」「良忍さん」「石川五右衛門」などを作・演出する。愛知万博開催記念特別公演「ふるさとの四季」作・演出・主演。2005年はNHK大河ドラマ「義経」、2006年はNHK金曜時代劇「出雲の阿国」の芸能指導を担当した。2007年には「狂言と鼓童のコラボレーション・蓬莱貴譚」を作・演出する。現在、萬狂言関西支部代表、重要無形文化財総合指定保持者、(社)日本能楽会会員、(社)能楽協会会員、千葉大学客員教授、佐渡「鼓童」指導講師。

千葉大学（伝統文化をつくる）の授業について

授業では、学生たちは、舞台・道具・展示・広報の4つの班に分かれて活動を行っています。それぞれの班の活動内容を含む学生からのコメントを紹介します。

・舞台班

私達舞台班は、「伝統文化をつくる」の授業を通して完成した「やぶしらず」に出演します。舞台班の学生は他班と掛け持ちをしており、前期授業はその活動を行っています。9月の狂言ワークショップから活動が本格化します。全5回のワークショップでは、市民の方とともに、狂言師の小笠原匡先生の指導を受けます。また、今回の「やぶしらず」は冒頭に盆踊りの場面があり、ワークショップでその振り付けと歌詞を市民の方に教えることになっています。私達舞台班は市民の方と協力し、「やぶしらず」の舞台を盛り上げることを目指しています。



・展示班

私たち展示班は、公演当日に会場で配布されるプログラム作成と、会場に設けるパネルの文章・レイアウト作成を主な活動としています。プログラムとパネルの特徴の差異を念頭に置きながら、どちらにどのような内容を記載するべきかを班員で話し合い、様々な文献に基づいてそれらに記載する内容を決定します。プログラムとパネルともに、文章ばかりでイメージが湧きにくい場合などは、地図や絵などの視覚的情報を盛り込む工夫をしました。狂言に馴染みの無い方でも気軽に触れることの出来るプログラム・パネル作りをしていきたいです。

・道具班

私たち道具班は、主に「やぶしらず」の舞台で使う小道具や衣装をつくっています。全ての衣装を作る訳ではありませんが、新しく作っている衣装は舞台の内容に合わせて、布を買うところから始めています。夏休みから班員で集まり少しずつ作業を進めて来ました。小笠原先生に助言を頂きながら、舞台をより楽しめるような道具を作ろうという気持ちのもと班員全員で協力体制を作って仕上げたものです。少しでも舞台の支えになっていれば幸いです。



・広報班

広報班は、本公演の宣伝活動を行っています。ポスターやチラシの掲示・配布による本公演のPRはもちろん、授業風景や広報活動の様子も、昨年度に引き続き SNS サイトやブログを通じて報告していきます。直接舞台に関わる機会は少ないですが、私たちの広報活動によって、「伝統文化をつくる」という授業や本公演について、幅広い層の方々に知っていただき、多くの方に本公演へ足を運んでいただくことで、舞台を裏から盛り上げていきたいと考えています。

見る、知る、伝える千葉～創作狂言～プロジェクトホームページ

<http://www.cbs.or.jp/zaidan/kyogen/index.html>

学生ブログ (<http://kyogenchiba2015.blog.fc2.com/>) やこれまでに行ってきた公演の内容の記載もあります。

《事業概要》

- 1 事業名 見る、知る、伝える千葉 創作狂言「やぶしらず」
- 2 公演 平成27年12月13日(日) 14時開演
千葉県文化会館 小ホール
全席自由2,000円 学生1,000円
- 3 内容 第一部 レクチャー&デモンストレーション
狂言「隠狸(かくしだぬき)」
第二部 創作狂言「やぶしらず」
- 4 出演 小笠原 匡、野村万禄、加藤充華
若菜の会、千葉大学学生、狂言体験講座受講者
- 5 プレイガイド
千葉県文化会館 043-222-0201
千葉県東総文化会館 0479-64-2001
インターネット予約 <http://www.cbs.or.jp/> 他
- 6 主催 公益財団法人千葉県文化振興財団 043-222-0077
- 7 後援 千葉県、千葉県教育委員会、千葉市、千葉市教育委員会、
市川市、市川市教育委員会
- 8 運営 見る、知る、伝える千葉～創作狂言～運営委員会
- 9 助成 芸術文化振興基金
- 10 お問い合わせ 千葉県文化会館 043-222-0201